

平成 19 年度
第 8 期

事 業 報 告 書

自 平成 19 年 4 月 1 日
至 平成 20 年 3 月 31 日

財団法人 ひろしま・祈りの石国際教育交流財団

東京都港区虎ノ門三丁目 7 番 2 号

1、はじめに

当財団は、教育を受ける機会に恵まれない途上国の子ども達を対象とする教育環境整備プロジェクトを資金面で支援することを主たる事業として展開して参りました。本年度は内外のボランティア団体や教育関係者に対する助成事業に加えて、昨年度現地事情により実施の延期を余儀なくされた在日大使館との協働による国際教育活動支援を実現することができました。従前同様途上国で活躍している民間非営利団体を対象として直接申請を働きかけ、またホームページを通じて公募を行ないましたが、最終的に財団所定の手続きを経て総額23,685千円の助成金を交付し、途上国児童の教育環境向上のために資金支援を行いました。将来を担う子ども達の教育環境改善を通じて、国際理解・国際協調を促進するという設立目的達成に向けて着実に実績を重ねることが出来ました。

資金調達面では、引続き多額の寄付金を受け入れたほか個人賛助会員から大口の寄付があり、また法人8社および228人の個人の皆様から賛助会費を収受いたしました。賛助会費収入は予算比未達に終わりました。財団の事業に賛同して資金面で支援をしていただく賛助会員の絶対数の低下に歯止めをかけることが、今後の大きな課題であります。

2、主な活動

(ア) 国際教育活動支援事業

昨年度に続き、子ども達の教育環境を改善するための事業展開チャンネル拡大を目的に南アフリカ共和国大使館アタッシュェとの協働作業継続いたしました。計画通り持越し案件である同国クワズール・ナタール州の高校の理科教室棟新築プロジェクトに3,000千円の資金支援を行い、恙無くプロジェクトの完成をみました。

(イ) 助成事業

過去の助成実績を踏まえ、当財団の設立理念である『子ども達の識字教育支援を中心とする国際教育援助事業』を更に拡大するべく、積極的に助成プログラムの情報発信を行ないました。財団ホームページへの掲載に加えて、助成関係団体やNPO諸団体発行の助成プログラム案内やホームページ及び機関紙等の情報欄を利用して応募の募集を行うとともに、途上国・子ども・教育をキーワードとする助成金の交付先候補として相応しいボランティア団体を数多く抽出し、助成選考要件・募集要項を送付して良質プロジェクトを有する団体に直接働きかけて探索・獲得に努めたほか、名古屋地区への出張勧誘も実施いたしました。この結果、略200団体に対して勧誘を行い、プログラムに興味を示し

た 48 団体のうち 35 団体から総額 44,507 千円の申請を受領しました。なお、海外からの直接申請は、10 件 14,731 千円（助成限度額 1,500 千円を超える申請は、1,500 千円にて計算）に達しました。昨年に続いて過去 3 年間連続して助成を行った団体からは、申請を受理しませんでした。

受付締切後、事務局において個々の申請団体の事業遂行能力・関与度合い、助成対象プロジェクトの当該地域コミュニティにおける意義や効果、実施計画や予算の妥当性等を総合的に吟味しました。平成 20 年 1 月 12 日に当財団に於いて開催した外部の有識者を交えた助成案件選考委員会に事務局案を提示して慎重に審査を行なった結果、平成 19 年度の助成金支給候補先として 20 団体計 24,049 千円のプロジェクトが選考され、評議員会・理事会に諮問・付議する旨決定されました。寄付金受領額が予算を上回ったことに伴い、理事会承認を条件に助成金予算を 1,049 千円超える案件を選考したものです。

平成 20 年 2 月 23 日、広島県廿日市市の「セイハウ・オンブラージュ」にて開催された評議員会への諮問を経て理事会に付議され、提案どおり助成する旨の決議がなされました。なお承認案件の中に実質米ドル建ての申請が 2 件あり、送金時の為替レートが極度の円高に転じていたため、最終的な助成金額は 23,685 千円に留まりました。

助成プロジェクトの地域分布を前年実績と比較しますと、プロジェクト実施国は 3 ヶ国減少して 11 ヶ国になりました。今回はじめて東チモールの事業に対する助成が採択されました。

(ウ)財団事業のPR，賛助会員の獲得と寄付金収入

9 月 15、16 日の両日、広島県廿日市市にて開催された『杜のフェスティバル 2007』（主催：杜のフェスティバル実行委員会）を後援いたしました。場内放送による財団事業のPR、賛助会員の募集に注力したのに加え、会場内に設置した財団独自のテントに於いて入場者に対し財団の事業・助成対象プロジェクトの展示や紹介を行ない、財団設立の趣旨を説明・PR いたしました。残念ながら、天候に恵まれず、賛助会員募集面では当初期待した成果を収めることが出来ませんでした。

本年度中に当財団支援のため賛助会費を納入した個人会員数は、228 人（家族会員・ジュニア会員を含む）に留まり、事業会社 8 社から受領した法人会費を加えても予算未達に終わりました。前年度に引続き財団の事業を支援して下さる 2 団体より、45,000 千円の寄付をいただきました。また財団事業に賛同して下さった福岡市の個人賛助会員から、寄付金 1,400 千円を受領しました。

3、収支決算の状況

(ア) 期初に賛助会費および寄付金収入として計 46,300 千円を見込みましたが、前述の個人賛助会員からの寄付金受領により、実績は 47,540 千円となり予算を上回りました。

(イ) 当初予算では事業費 29,850 千円、管理費 23,120 千円の支出を見込みましたが、本年度実績はそれぞれ 30,553 千円、22,063 千円となり、経常費用合計は 52,616 千円となりました。この結果、正味財産期末残高はは昨年比 4,611 千円減少し、216,123 千円となりました。なお、平成 19 年 2 月開催の評議員会および理事会にて当初支出予算の変更が承認されています。

以 上